

令和6年度 平塚市横内子どもの家運営委員会 会議要旨

日時 令和6年5月17日(金) 10時30分～11時30分

場所 横内公民館

出席者 <委員>

伊澤委員、米本委員、五味委員、木村委員、津島委員、牧野委員、鈴木委員、山梨委員
(委員10名中、8名出席)

<事務局>

青少年課 小嶋課長、嶋崎担当長、高橋主事

子どもの家 内藤主事

傍聴者 0人

1 開会

2 子どもの家運営委員委嘱式

3 あいさつ

4 運営委員及び職員自己紹介

5 子どもの家運営委員について

事務局から条例、施行規則を資料として子どもの家の運営や運営委員に関することについて説明を行った。

6 委員長の選出について

事務局より案を提示し、運営委員長に小笠原委員が承認された。

7 議題

(1) 令和5年度平塚市横内子どもの家利用状況の報告について

- ・開館日数は、令和4年度と同じ347日であった。台風接近により臨時休館が1日あった。利用者数もほぼ同じで、小学生と中学生が若干増えて育成者と幼児が減った。
- ・市外からの利用者は前年度より1.3倍に増えた。
- ・令和5年度の4館の利用者は、全館で増えたが横内は微増であった。ただ、令和4年度の利用者は、3館が減る中で横内は大きく増えている。

(2) 令和5年度平塚市横内子どもの家自主事業の報告について

- ・自主事業を2回実施した。
- ・10月に横内子どもの家としては初めて、東海大学スチューデントアチーブメントセンターによる「あそびの広場」を実施した。また11月に講師を迎え「折り紙教室」を実施した。
- ・「あそびの広場」は、大学生が進行やゲームの説明・子どもと一緒にプレーするなど、明るく楽しく交流できた。20名の定員であったことから、参加できなかった子供も多くいた。ゲームの内容は、「段ボールあそび」「マス鬼ごっこ」「新聞びりびり」だった。
- ・「折り紙教室」はクリスマスリースを作成したが、折り方が複雑で若草保育園の保育士や保護者が一緒になって作成したが、低学年には難しかった。

【伊澤委員】

・折り紙教室は、確かに難しかったようだが、高学年が低学年の面倒を見ていたので、コミュニケーションづくりに役立ったのではないかと。

・あそびの広場は、子どもたちがわいわい楽しそうに遊んでいた。

【米山委員】

どちらも子どもたちは楽しそうに参加していた。

(3) 令和6年度平塚市横内子どもの家自主事業の予定について

- ・昨年度、参加できなかった子供もいたことから、今年も東海大学スポーツ社会貢献プロジェクトに「あそびの広場」をお願いしたい。10月ごろに実施できればと考えている。
- ・また12月に、横内ジュニアバンドの皆さんに「クリスマスコンサート」をお願いしたい。地域で活動する子どもたちの発表の場になればと考えている。
- ・余談だが、他の館では2回とも東海大学にお願いして自主事業を行っている。2回目は「科学マジックショー」を行っていて、できれば横内も行いたい。年間3回実施できるのか検討してみたい。

【伊澤委員】

昨年度、あそびの広場に参加したが、スペース的に余裕があると感じた。参加者を増やせるのではないか。

東海大学に確認してみる。

【米山委員】

おやきなどを子供と大人で作って食べることはできないか。

保健所の許可が必要になるため、実施は難しい。

(4) その他

- ・留守家庭事業について、主事が説明
- ・資料はないが「平塚市の子どもの家留守家庭児童対策事業」について説明したい。子どもの家が設置されている中学校区の児童に限り、この制度を利用できる。小学3年生以下の児童で、就労等で保護者が昼間家にいない家庭の児童が対象となる。定員は20名までで、市に申請し承認されれば利用開始となる。学校が終わった後、直接子どもの家に来て、閉館まで遊んでいる。必ず閉館前に保護者が迎えに来ることや施設の中だけで遊ぶことなどの条件はある。今年度は定員一杯の20名の申請があり、これ以上は受けられない。

【伊澤委員】

一人抜けたら新たに入れるのか。定員一杯となったことを知らせているか。

制度的には、退会者ができれば入れる。申請中で許可になっていない子どももいることから、全員許可になった段階で、定数に達したことや利用児童名などを小学校に知らせる。

【米山委員】

個人情報になるので、話せないかもしれないが、母子家庭など片親の利用が多いのではないか。

17時までには必ず保護者が迎えに来ることが条件となっているため、正規職員として働いている方の利用は難しい。ほとんどの方が、共働きで奥さんがパートで働いている方である。